

“資力の有無にかかわらず救助する” これが災害救助法です

今定例会での私の一般質問の続報です。前号では柏崎刈羽原子力発電所の問題を書きました。今号では、今冬における豪雪対策についての質問を報告します。



今冬の雪に起因する事故は死亡5人、重傷21人、軽傷34人にもなりました。私は、交通事故と並んで雪に起因する事故対策を強化すべきだとのべたうえで、①豪雪時の災害救助法と救助対象、②今冬の豪雪対応についての検証、③マンパワー不足と自衛隊などからの支援、④13区における総合事務所産業建設グループの集約についての検証に関して質問しました。

この中で、「災害救助法の適用におい

て、特に障害物の除去（除排雪）については、自らの労力に対応できない世帯を全て救助すべきだと思うがどうか」と質問しましたが、市長は、「新潟県が作成している『災害救助の手引き』では、『自らの資力及び労力によっては除雪を行うことができない世帯』が原則とされている」と答弁し、依然として資力にこだわった対応をしていることが明らかになりました。

私は、平成24年5月に行われた「災害救助担当者全国会議」資料などを引用し、厚労省が「大雪災害においては、自ら除雪を行う人員の確保が難しい状況であることが想定されるため、資力の有無にかかわらず、同法による住宅の除雪を行うことができる」としていることをのべるとともに、「退院して間もない70代の男性が救助の対象から外され、やむなく屋根雪下ろしをしたが、体力がなく途中で断念した」実例を紹介しました。そ

して、「厚労省の見解が変わったにもかかわらず、そのことが継承されていない。大問題だ」とのべ、考えを改めるよう訴えました。

身近な生活道路等が長期間除雪されないなど、今冬の豪雪対応については、専門的な知見も入れてのしっかりした検証をすべきだと質問しました。

これにたいして市長は、「異常降雪にも対応できる計画立案に向け、町内会と除雪事業者、市の3者による意見交換会の実施に加え、今冬の被害や対応などを記録する必要があると考えておりますことから、関係行政機関とも合同で記録・検証を行えないか検討し、来期への対応を始め、次世代にもつながるよう、効果的な除雪手法の研究を進める」とのべました。今後の動きを注視していきたいと思えます。



【アズマイチゲ】（再掲）キンポウゲ科の多年草。漢字で「東一華」と書きます。花は白色でキクザキイチゲとそっくりですが、こちらの葉は、切れ込みが浅く、ゆったり感があります。花言葉は「静かな瞳」。写真は3月20日、吉川区尾神にて撮影しました。

45議案のうち5議案に反対

3月議会の最終日。日本共産党議員団は、今議会に提案された45の議案等のうち、新年度の一般会計予算、国民健康保険特別会計予算など5つの議案について反対しました。他の議案は賛成しました。

5議案に反対した理由は、①コロナ禍にあつて、市民の暮らしを守る施策の実行が不十分。約94億9千万円にもなる財政調整基金の思い切った取り崩しを行うべきだ、②地方自治破壊、国民監視、人権無視の政府のデジタル化推進を容認していること等です。

上越地区労連から今定例会に出された「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める」意見書の採択を求める請願については、市民クラブと日本共産党議員団の5議員が賛成したものの賛成少数で不採択となりました。

私は紹介議員を代表して賛成討論に立ち、「新潟県の最低賃金（現在、831円）は、関東甲信越北陸13都県のなかで最低クラスだ。県内でも15自治体首長が新潟県地方労働局に対して、最賃大幅引き上げと地域経済回復のための要請を出している。最賃引き上げは、上越市で若者が定住し、人口減少をくいとめていく土台となるものだ」と賛同を訴えました。



はしづめ法一の 活動レポート

No.2004 2021.3.28

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い 第六五一回 それ、忘れらんねな

母が語る昔話は、私が初めて聞く「新事実」が毎回のように出てきて、引き込まれます。

三月九日の夕方もそうでした。午後五時半過ぎ。病院での診察を終え、自宅に戻っていた母は、いつものようにコタツに入っ

て、静かにしていました。母のしゃべりにスイッチが入ったのはテレビで放映された北極ギツネを見たときでした。

このギツネはどこかの施設から逃亡してきた白いギツネの話ですが、母は大島区竹平の実家、「のうの」(屋号)のタケジロウさん(故人・母の祖父に当たる人)の話

を始めました。タケジロウさんが足谷から旧松代町儀明にいく途中にある川上という場所で炭焼き

をしていて遠いので、そこに力やでついた小さな小屋を造り、昼寝をしたり、雨風を

のいでいたりしていたということでした。そのタケジロウさんがある日、家に帰ろうとしたら、ギツネの行列に会った。幸い

だまされることなく、追いついたというのです。母は、まるで自分が見たかのような感じで私に話してくれました。そして話の最後に母は、「それ、忘れらんねな」と言

「わかるよ、おれも知ってるよ」
「その『おおくぼ』のとちやがちっちえ時、『おつかあ、はらへったあ』そって泣いていたがど」

「そんで……」
「おらちにオジヤあるすけ、来て食べないそったら、おらちに来て、さくさく食った。おかわりもした」

「そりや、喜んだろ」
「クジラでも入ってればうんめがでも、入ってなくて悪いねそったがど。そしたら、『おおくぼ』のとちや、入ってなくてもうんめよ、そったがど」

「……」
「『おおくぼ』のとちや、そんなときのこと、忘れらんねかったがろな。大人になつてから、『おおくぼ』んちへ行ったら、ビール飲めつて言わんだがど」

「そんで、おまん、飲んだがど」
「なして、飲まれると……。飲まんねそつたこて。そしたら、とちや、『ばかしと、ノド乾いてるときや、飲めばうんめもんどい、のまっしやい』と言つてたな。それ、忘れらんねな」

母の話はその後も続き、「おおくぼ」のとちやが炭鉱でケガをし、新潟大学病院に通っていたところまで広がりました。

三月二十四日、この日、母が話かけてきたのは朝でした。それも、まだ夜も明けない午前五時頃です。そば寝していた私は何事が始まったかと、びっくりしました。

「とちや、『いけんしりの下』(屋号)の結婚式ん時、おらとちや、歌つたがど。あこんちの男の兄弟しよ、三人だったかな。みんないい顔してなつて、その一人が歌つたら、ほしやおれも、ほしやおれもと次々と歌、出たがど。それ、忘れらんねな」
母は三月二十七日で満九七歳になりました。「それ、忘れらんねな」で終わる話、もっとも聴きたいものです。

第三セクター経営改善、どう進めるか

市政の重要課題の1つ、第三セクターをめぐって4日の文教経済常任委員会で質疑がありました。

委員からは、「第三セクターの方向性は、収益性に片寄らず、設立の経緯や市民の思いも判断材料の一つとしてほしい一方で、民間でもできる温浴施設という性格を持つ第三セクターもある。どのように整理していくのか」との質問がありました。市の担当者は、「管理運営をする事業者の話と、施設そのものの話を整理する必要がある。また、合併時

の町村の思いと、区になったときに同じ思いがあるかということや、市全体で見たときに施設を使ってもらえるかということをもう一回検討する必要がある。時間的な制約はあるが、これまでの合併からの歩みを踏まえ、施設を将来どのようにしていくか、発展性のある議論を行っていきたい」と答弁していました。



常任委員会審査の中から

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月17日(水)	3月24日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.053	0.053
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.053	0.053
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.053	0.047

外国語指導助手、12人欠員

外国語指導助手による語学指導事業について、3日の文教経済常任委員会で質疑が行われました。

委員からは、「新型コロナウイルス感染拡大により、外国語指導助手(ALT)の12人が欠員となり7人体制となったが、不具合はなかったのか」という質問がありました。これにたいして市教育委員会は、「今後どのように進めていくか協議

する中で、直接雇用と民間委託の様々なメリット、デメリットを勘案しながら、引き続きJETプログラムを活用して派遣を受けるとした。今後、入国制限の解除などの状況を見ながら対応していきたい」と答弁していました。

新型コロナの問題はこういうところにも影響を与えているんですね。